

多可町の祭り



いざりがみ にほん たなだ ひやくせん
岩座神(日本棚田百選)



ひょうごけん してい むけい ぶんかざい すぎはらがみ かわ
兵庫県指定無形文化財 杉原紙の川さらし

あおたまじんじゃ ゆだ まつ 青玉神社 湯立て祭り



(残しておきたい“ふるさと北播磨”写真コンテスト入賞作品)

あおたま じんじゃ ちゆうせい すぎはらがみ う すぎはらしょう すぎはら
青玉神社は中世には杉原紙を生んだ杉原庄(相原)
そうちんじゅしゃ かんが とりまあおたまじんじゃ
の総鎮守社であったと考えられています。鳥羽青玉神社
おこな ゆだてまつり おお ひと はいでん
で行われる「湯立て祭り」は、多くの人でにぎわいます。拝殿
まえ こ ほんがま ゆうし ひと そ がま なら
前には、12個の「本釜」と、有志の人の「添え釜」が並び、
ちゅうおう かま うじこ ぜんいん かま みこ かま お
中央の釜は、氏子全員のための釜です。巫女が釜に御
み き こめ い かま みず すこ おけ しんぜん
神酒と米を入れて、釜の水を少しずつ桶にとって 神前に
ほうのう て も さんばいしゃ かま
奉納します。そのあと、クマザサを手に持ち参拝者らに釜
みず ふ みず いちねんかん むびょうそくさい り
の水を振り、この水がかかると一年間無病息災※1のご利
やく じん
益があると信じられています。

※1 無病息災:人々が健康で安全であること

いつ : 7月15日に近い日曜日
どこで : 多可町加美区鳥羽735
道の駅杉原紙の里・多可西側



きふねじんじゃ なかむら りゅうおう まい
貴船神社(中村) 竜王の舞(リョンリョン)



リョンリョン



ゲイゲイ

きふねじんじゃ なかむら さかもと よこや しもむら ちく あまふね
 貴船神社は、中村ほか坂本・横屋・下村の4地区(天船
 ちく うじこ ごうしゃ あきまつ ちゅうせいき きゅうちゅう
 地区)を氏子とする郷社です。秋祭りでは、中世期に宮中
 おこな おう まい う つ りゅうおう
 で行われていた王の舞を受け継ぐ「リョンリョン(竜王の
 まい でんかく う つ おこな
 舞)」と、田楽を受け継ぐ「ゲイゲイ」が行われます。
 「リョーンリョン」のかけ声に合わせて跳ねる天狗は、木の
 ほこ じめん ほん せん ひ かみ かいたく
 鉦で地面に3本の線を引きます。これは、神が開拓のため
 そくりょう ようす い
 に測量する様子と言われます。

かぐら まい よ ししまい おこな と
 そのあと「神楽の舞」と呼ばれる獅子舞が行われ、飛
 は とち たがや ようす あらわ
 び跳ねることで、土地を耕す様子を表しています。

おど こ だんじ にん かみしちよう おとな
 ゲイゲイは、「踊り子」の男児4人と「神仕丁」の大人
 おとこ む あ おど こ かみしちよう ぬのば
 (男)が向かい合い、踊り子はササラ、神仕丁は布張りの
 たいこ えんそう
 太鼓演奏をします。

いつ：10月初旬
 どこで：多可町八千代区中村207



きふねじんじゃ しもみはら うばらばら
貴船神社(下三原) 雨散散



うばらばら しょうがつしんじ しもみはら きふね じんじゃ ほんでん
 「雨散散」は正月神事です。下三原の貴船神社本殿
 わき た はちまんじんじゃ おこな うじこ しきみ えだ ふじ
 の脇に立つ八幡神社で行われ、氏子たちは櫓の枝に藤
 わ つく つ せんまい はんし
 かずらで3つの輪を作ったものを付けて、洗米を半紙に
 つつ みずひき つ やしろまえ あつ かん
 包んだものを水引でくり付けると、社前に集まります。神
 ぬし ひとり のりと そうじよう ひとりにわ
 主の一人が祝詞※1を奏上すると、もう一人が「お祝い
 もう い え もくはい い み き うじ
 申す」と言いながら柄のついた木杯に入れた神酒を氏
 こ ずじよう ふ うじこ しきみ ふ
 子たちの頭上に振りまいて、氏子たちは櫓を振りながら
 うばらばら かいとな しきみ おみ き おお
 「雨散散」と3回唱えます。「櫓に御神酒のしずくが多く
 つ つた いえ も かえ あまど とぶくろ ふ
 付けばよい」と伝えられ、家に持ち帰って雨戸の戸袋付
 きん さ
 近に挿します。

※1 のりと かみ そうじよう もう あ ことば
 祝詞:神に奏上する(申し上げる)言葉

いつ：1月1日
 どこで：多可町八千代区下三原390



ごしゃじんじゃ あきまつ
五社神社 秋祭り



神楽舞



宮入り

かぐら ふつかかん しゅうらくない やく こ はら
神楽が2日間にわたって集落内の約200戸をお祓いし
まわ こうじんばら みやい ごこくほうじょう いわ
て回ります(荒神祓い)。宮入りでは、五穀豊穰※1を祝い、
こらい つた まい うじがみさま ほうのう いま
古来より伝わる7つの舞を氏神様に奉納します。今は20
だい わかてちゅうしん けいしゅう とく けいだい かぐら
代の若手中心に継承※2に取り組んでおり、境内での神楽
まい かんきやく まい こ まつ も あ てんぐ
舞、そして観客を巻き込んで祭りを盛り上げる天狗など、
すべ むね う でんとう わざ
全てが胸を打たれる伝統のなせる技です。

かぐらまい さいご まい かみいさみ か こえ ふえ おと すこ
神楽舞の最後の舞「神勇」は、掛け声や笛の音、少し
ひ く けいだい ふんいき も あ
日が暮れかけた境内が、雰囲気盛り上げます。

※1 五穀豊穰:農作物が豊かに実ること

※2 継承:受け継ぐこと

いつ : 10月 第2土・日曜日
どこで : 多可町加美区豊部1413



こうじやいなりじんじゃ あきまつ
糶屋稲荷神社 秋祭り



こうじや いなり じんじゃ いなりごう むら そがい さかもと あ
糶屋稲荷神社は、稲荷郷の5ヶ村(曾我井・坂本・安
さか こうじや もりもと うじがみ あしかがたかうじ あかまつし すうけい
坂・糶屋・森本)の氏神で足利尊氏や赤松氏の崇敬※1、
せんひめ ごまどう きしん つた がつ
千姫による護摩堂寄進※2などが伝えられています。10月
ごこく ほうじょう きねん おこな しゅうきれいさい よいみや ほんみや
の五穀豊穰を祈念して行われる秋期例祭(宵宮、本宮)
うらやす まい ほうのう ごうか けんらん かくちく やたい
では、浦安の舞が奉納され豪華絢爛な各地区の屋台が
じゅんこう ほんみや ひ かくちく やたい
巡行※3します。本宮の日は、各地区の屋台はそれぞれの
ちく くない じゅんこう ぎおんばやし うた ところどころ さ あ
地区内を巡行し、祇園囃などが唄われ所々で差し上げが
おこな いなり じんじゃ ゆうそう い
行われます。そのあと、稲荷神社において勇壮にして威
せい みや い おこな けいだい よきょう
勢のよい宮入りが行われます。境内ではさまざまな余興
おこな じんじやくいん もち な
が行われ、神社役員による餅投げもあります。

※1 崇敬:あがめうやまうこと ※2 寄進:神社に寄付すること

※3 巡行:コースを順に回ること

いつ : 10月 第2土・日曜日
どこで : 多可町中区糶屋434-2

